

会 議 録

会議の名称	平成20年度富士見市青少年問題協議会
開催日時	平成20年9月19日(金)午後1時50分～3時45分
開催場所	中央図書館2階 集会室
出席者	星野 信吾会長、藤屋喜代美委員、宇塚 一文委員 森元 州委員、長嶋義雄 委員、竹内春夫 委員 石川雅美 委員、大石保雄 委員、田坂佳宏 委員 川 きよみ 委員、山田一江 委員、鈴木芳弘 委員 事務局(寺沢生涯学習課長、坂本主任)
欠席者	高橋藤明 委員、関根 宏 委員、萩原茂昭 委員 有賀輝彦 委員、吉田京子 委員、羽石貴裕 委員、 市川正三 委員
公開・非公開	公開(傍聴人 0人)
会議次第	会長あいさつ 委員自己紹介 講話「子どもへの望ましい関わり方」 ～親子の調査で分かったこと～ 講師 富士見市教育相談研究室室長 木津秀美 氏 青少年健全育成について意見交換
会議資料	富士見市青少年問題協議会委員名簿 「子どもへの望ましい関わり方」 ～親子の調査で分かったこと～

会 議 内 容 (要 点 記 録)

会長あいさつ

協議会開催にあたり、星野信吾会長があいさつを行なった。

委員自己紹介

委員全員が自己紹介を行なった。

講話

テーマ「子どもへの望ましい関わり方」～親子の調査で分かったこと～

講師 富士見市教育相談研究室室長 木津秀美 氏

子どもとその親が親子関係や学校生活に対して「何を感じているか・何を求めているか」の認識のズレを、本市が行った「親と子の調査」(平成18年「児童生徒生活実態調査」・平成19年「教育に関する保護者意識調査」)の結果を基に明らかにして、望ましい家庭教育とその課題について、具体的な事例などを見せながら説明がなされた。

青少年健全育成について意見交換

委 員：子どもに対する言葉のかけ方が重要だということは大変理解できた。
言葉のかけ方と同様にスキンシップも非常に大切なのではないかと感じている。

講 師：不登校児の親御さんには、子どもとのスキンシップを薦めている。
スキンシップを行うことにより、子どもと親との間に会話が生まれる。
触れ合いということは非常に大切な事。
「言葉でストロークする」という意味は、「言葉でなでる」ということで、非常に大事なことである。

委 員：日曜日などに部活動の顧問の先生を優遇できるような措置ができれば良い。
熱心な先生の指導のもとで礼儀や上下関係を学んだり出来る。
優遇措置が出来れば、更に子どもとの関わりが増えてくる。

会 長：スポーツでも文化でも部活動は、色々な意味で人間形成に役立つことが出来る。

委 員：朝食をきちんと食べるということから立て直していかないと子ども達の健全育成は出来ない。
現在、富士見市内の中学校は落ち着いている。人間関係作りを意図的に学校内で広めていくことで子ども達の間人間関係が非常に良くなって来る。
それが学力の向上につながるということもある。

会 長：朝食を摂る、摂らない、で違いがデータで出ている。
食育についてもしっかりやっていていただきたい。

委 員：子ども達には、手作り弁当を食べさせてもらいたい。
手作り弁当は愛情も一緒に食べることが出来る。

会 長：委員の皆さんの意見等を今後の審議会に生かしていきたい。

閉会あいさつ 事務局 寺沢生涯学習課長